

カービュー マーケットウォッチ (2011年4月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

大震災の影響で前年同月比37.4%の大幅減

11年 3月順位	11年 2月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(2)	↑	フィット	ホンダ	22,284
2	(1)	↓	プリウス	トヨタ	19,702
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	13,915
4	(4)	→	セレナ	日産	9,575
5	(5)	→	フリード	ホンダ	8,608
6	(7)	↑	カロラ	トヨタ	7,136
7	(12)	↑	マーチ	日産	6,460
8	(9)	↑	デミオ	マツダ	6,375
9	(10)	↑	ステップワゴン	ホンダ	6,251
10	(8)	↓	パッソ	トヨタ	5,790
11	(6)	↓	ラクティス	トヨタ	5,533
12	(11)	↓	ヴォクシー	トヨタ	4,928
13	(16)	↑	ノート	日産	4,667
14	(17)	↑	ウィッシュ	トヨタ	4,011
15	(23)	↑	スイフト	スズキ	3,813
16	(14)	↓	ノア	トヨタ	3,767
17	(15)	↓	ソリオ	スズキ	3,765
18	(21)	↑	キューブ	日産	3,551
19	(13)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	3,499
20	(19)	↓	クラウン	トヨタ	3,476

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■大震災の影響で前年同月比 37.4%の大幅減 特に3／5ナンバー国産乗用車は4割超のマイナスに

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した3月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は36万3574台で、前年同月比62.6%と7カ月連続で前年を下回った。下げ幅が37.4%減と大きかったのは、昨年3月が前年同月比25.2%増と絶好調だった反動もあるが、やはり東日本大震災により全メーカーの工場が操業停止となり、販売できる新車が不足したことの影響が大きかった。4月に入り、各社とも限定的に生産を再開したが、操業率は通常の50.0%以下となっており、バックオーダーを解消するだけでも2、3カ月かかる見通しだという。景気動向うんぬんというより、実際に販売できるクルマが不足するという異常事態だけに、先行きの不透明感は否めないところだ。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（新型日産 マーチ分含む）は22万2158台で、前年同月比58.7%。メーカーブランド合計では、昨年12月にモデルチェンジした「ソリオ」が月平均販売目標1000台を大幅に上回る3765台と好調に売れているスズキが8374台、前年同月比108.0%とプラスになった以外は前年割れとなり、トヨタが9万8080台で前年同月比51.4%、スバル7574台／同53.3%、三菱6424台／同51.6%など、厳しい状況となっている。月間ランキングでは「ホンダ フィット」が2万2284台で2カ月ぶりにトップを奪還。「フィットハイブリッド」が9335台と全体の4割強を占める売れ行きとなっている。2位は「トヨタ プリウス」で、3～5位は「トヨタ ヴィッツ」、「日産 セレナ」、「ホンダ フリード」と前月から順位変動なし。トップ30に限れば、前年を上回ったのは7位の「日産 マーチ」（6460台／前年同月比105.1%）と30位の「日産 エルグランド」（2036台／同147.0%）だけだった。

軽自動車は、乗用車部門だけだと11万9791台で、前年同月比67.5%。貨物車を含めた軽自動車全体でも15万8210台、前年同月比68.4%と6カ月連続のマイナス。車名別では「スズキ ワゴンR」が前年同月比62.8%ながら、1万7290台で3カ月ぶりにトップに立った。

輸入乗用車は海外メーカー製のみだと、2万1220台、前年同月比91.1%と3カ月ぶりに前年を下回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が5221台で3カ月連続のトップとなり、2位メルセデス・ベンツ3731台、3位BMW（ミニを除く）3450台、4位アウディ2296台、5位ミニ1336台、6位ボルボ1058台、7位プジョー702台、8位フィアット554台まで、順位に変動なし。ただ、この中で前年を上回ったのはアウディ、ボルボ、プジョーの3ブランドで、VW、メルセデス、フィアットは83.5%、79.7%、81.1%と2ケタ減になってしまった。

■ココも気になる！その1

2010年度累計ではプリウスが2年連続トップ

大震災の影響で、各メーカーの生産がストップし、貨物車などを含めた全自動車販売では3月単月として過去3番目の低水準となり、下げ幅は過去最低となってしまった。10年度（10年4月～11年3月）の乗用車累計では、「トヨタ プリウス」が28万3332台、前年度比2.1%増で2年連続のトップ。2位は「ホンダ フィット」で18万9369台（前年度比9.4%増）、3位「スズキ ワゴンR」17万7215台（同8.4%減）、4位「ダイハツ タント」16万8963台（同4.6%増）、5位「ダイハツ ムーヴ」13万7975台（コンテ含む。15.1%減）、6位「トヨタ ヴィッツ」12万8033台（同2.2%増）と続き、ここまでが10万台超となった。10年度上半期はエコカー減税や補助金制度により好調に推移したが、下半期は補助金終了の反動減に見舞われ、加えて東日本大震災がとどめを刺す形となり、全体では2年ぶりに前年を下回った。

震災直後はすべての工場が操業停止に追い込まれたが、4月に入り徐々に生産を再開。トヨタが18日から全工場でお操業を再開するのをはじめ、日産は11日から順次生産を再開し、被災した栃木工場、いわき工場も18日から生産再開の予定。ホンダ、スズキも11日から生産を再開したが、いずれにしても部品調達次第ということで、操業水準は3～5割程度と見られている。ただ3月の販売状況を見ると、被災地だけでなく、全都道府県で前年を下回っており、震災の影響が長引くことが予想される。各社とも2～3カ月でフル操業を目指すとのことだが、7～9月の夏季は電力不足が懸念されるだけに、安定供給による販売復調まで道のりは遠そうだ。

また「ホンダ フィットシャトル」や「トヨタ プリウス派生モデル」など、発売が延期されたニューモデルを含め、各社とも新型車の投入計画がずれ込む見込み。12月の東京モーターショーは予定通り開催の方向だが、注目のニューモデルがいつ頃登場するのか、まったく先が読めない状況だ。

■ココも気になる！その2

輸入車市場にも大震災の影響が…

補助金終了の反動減に悩む国産ディーラーを尻目に、今年に入って2カ月連続で前年超えと回復の兆しを見せていた輸入乗用車市場。3月単月では「日産 マーチ」など日本メーカー製輸入車を含む市場全体で2万8061台、前年同月比116.2%とプラスとなったものの、海外メーカー製のみでは8.9%減の2万1220台にとどまった。これは東日本大震災による販売店の被災に加え、物流網の混乱がその大きな要因。VWは昨年末から続いていた人気モデルの供給不足がさらに深刻化し、メルセデス・ベンツは茨城県日立市の陸揚げ港と新車整備センターが被災し、陸揚げ車両にも被害が及び、BMWは千葉県の新車整備センターが東京電力の計画停電への対応などで業務が一時ストップし、納車が遅れたことが販売減につながってしまった。

ただ10年度累計では、海外メーカー製乗用車のみで18万936台、前年度比9.8%増と5年ぶりにプラスに転じた。海外メーカー製ブランド別台数（乗用車、貨物車、バスの合計）では

VW が4万 5591 台、前年度比 12.1%増で 11 年連続トップ。2 位は BMW（ミニを除く）で3万 2604 台（前年度比 9.9%増）、3 位メルセデス・ベンツ3万 77 台（同 2.3%増）、4 位アウディ 1万 7907 台（同 5.5%増）、5 位ミニ 1万 1513 台（同 5.4%増）で、ここまでが1万台超となった。車名別では「VW ゴルフ」が2万 5151 台、前年度比 3.5%増でトップだった。

震災の被害が大きかったメルセデスは、茨城県・日立港の損傷と陸路の寸断により出荷を見合わせていた日立市の新車整備センターが 18 日から復旧する見通しとなったため、陸揚げ拠点を愛知県の三河港や千葉県の千葉港に移し、陸送して対応するという。新車供給の安定化による販売回復に期待したいところだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
